

課題名 月形スギ保護林の保護対策について（第3報）

機関名 空知森林管理署

所属 空知森林管理署 流域管理調整官 菊地 浩司  
空知森林管理署 岩見沢森林事務所 井田 悠一郎

## 1. 課題を取り上げた背景

月形町には、道内で初めて開庁した樺戸集治監があり、そこに収監されていた囚人達により、明治23年に植栽されたスギ林があります。

このスギ林は学術的価値や観光資源としての価値、公園機能を備えた行政サービスの価値など多くの価値を有しています。

平成22年が月形町開町130年の記念の年であったことで、その記念行事として、当署と月形町及び(独)北海道育種場と連携して、月形スギ保護林から記念植樹用の苗木の生産を行っていることを前報報告し、その後の活動について今回、報告します。

## 2. 取組みの経過

### 1) 後継樹育成の取組み

月形スギ保護林の枝を利用し、町有地において苗木を育苗した。初年度は灌水量と用土の不適合や温度管理体制の不備などもあり、予定より低い発根率となった。

そこで、翌春のパーンプットへ移植の際に、水はけの良い用土の変更を行い養苗した。しかし、その後も発根しない苗木があり、このままでは予定数量が確保できないため、不足苗木用として、北海道育種場において再度、枝穂の採取による苗木生産と実生からの育苗を実施し、記念植樹用の苗木の数量を確保した。

### 2) 林内調査の実施

現存木の維持健全化を図るため、その基礎データを収集する林分詳細調査を平成20年に実施した。

調査結果として、土壌や地形はスギの立地環境として良好とのことであった。ただ、樹冠について隣接木との競合関係で生育空間が狭い箇所があること。野鼠被害箇所から菌害の影響が懸念されると

のことの指摘があった。

### 3) 検討委員会の開催

有識者等から今後の月形スギ保護林の管理方法等について、意見を戴き、スギ林の管理方針を決めるべく「月形スギ保護林検討委員会」を開催した。月形スギ保護林での現地検討会を踏まえ、2回の委員会を行い、とりまとめ報告書を作成した。

## 3. 実行結果

### 1) 月形町開町130年記念植樹

平成22年5月27日に、月形町内の小中学生を含めた約250名参加の下、3機関の合同により育苗したパーンプットのスギ苗木1,100鉢を月形スギ保護林に隣接した町有地に植樹した。

また、同年7月3日に開催された開町130年記念式典において、月形町より空知森林管理署へ感謝状を授与された。

### 2) アンケート調査の実施

今回の記念植樹に参加した月形町内の小中学生の保護者を対象に、月形スギ保護林等に関するアンケート調査を実施した。結果として、月形スギ保護林を管理しているのがどこか分からないというのが大半であった。

### 3) 検討委員会の諮問結果

概略として以下のとおりである。

- ・野鼠被害が連続しないよう道有林で行っている野鼠予察情報を参考に早めの対処をおこなう。
- ・個体の生活空間を確保するため、適正な配置とする。ただし、急に空間が空くと蒸散作用が活発となるので、個体の樹勢を弱めないよう注意する。
- ・虫害被害が起きないように、こまめに枯損木の撤去を行う。等々

## 4. 考 察

2haほどの狭い国有林ではあるが、地元月形町を始め関係機関協力の下、無事、記念植樹用の苗木を確保することができた。

今後も、検討委員会の意見等も参考に、この貴重なスギ林をPRしながら、後世へ引き継いでいくよう管理していきたい。